

フードデザインにおけるレシピ絵本の製作

～ホームプロジェクトと関連させた食育の推進～

1 実践事例について

専門教科「家庭」の科目である「フードデザイン」においてホームプロジェクトと関連させて、レシピ絵本を製作する。製作したレシピ絵本については、グループ内で発表を行い、作品及び発表内容についてのコメントを出し合う。さらに、校内展示も行う。レシピ絵本は、各自で実践した内容とそれに関連したことをまとめた記述並びに各自で調理した料理の写真を載せるだけでなく、絵本としての要素を含むことによって、読者の食に関する関心を、より引きつけるように心がけるものとする。この学習を通して、食育の推進に寄与するとともに、製作者及び読者の思考力・判断力・表現力を育成することをねらいとした。

2 学習活動の概要について

(1) 単元名

食育と食育推進活動

(2) 単元の学習目標

ア 食育基本法及び食育推進基本計画の趣旨を理解する。

イ 食生活を総合的にデザインするとともに、食育への寄与の方法について考えを深める。

ウ ホームプロジェクト「レシピ絵本の製作」の実践を活用して、食への関心を高める。

(3) 評価規準

〈関心・意欲・態度〉 家庭や地域における食生活上の問題点や課題を把握し、それらの課題を解決に向けて、食生活に関する実践活動を積極的に取り組もうとしている。

〈思考・判断・表現〉 栄養や調理等の習得した知識を生かして、食生活に関する課題を見付け、課題解決を目指して、考えを深めようとしている。

〈技能〉 ホームプロジェクトの実践から発展させて、主体的に食生活を営むために必要な情報を収集・整理し、発表することができる。

〈知識・理解〉 食育基本法の趣旨を理解し、食育の重要性を認識する。

(4) 単元の工夫

ア 食育に関する実践活動に積極的に取り組むことができるように、レシピを絵本にすることで、食育への興味・関心を向上できるようにする。

イ ホームプロジェクトと関連させて、生徒が主体的に活動できるように、適切な課題を設定して、言語活動の充実を図る。

(5) 主な学習活動

ア 題材の指導計画（全13時間、授業は2コマ連続で実施）

学習項目（時）	学習活動（時）	言語活動に関する指導上の留意点
食育の意義（2）	食育基本法（1） 地域の食育活動について（1）	・地域の食育活動の在り方について、情報を収集・整理し、食育に関する活動について考えをまとめさせる。
家庭における食育推進活動（11）	ホームプロジェクトについて 【事前準備】（別添資料1） レシピ絵本の製作について（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・一枚の画用紙で作るレシピ絵本の作り方と留意点を示し、提出日と評価の観点について説明する。絵本の美点に着目させ、レシピ絵本は、どのようなものが適切かを考えさせる。 ・画用紙で絵本の形に整え、レシピ絵本をどのように仕上げるか試案を提示させる。
	【調理・絵本製作】*課題 「休日のランチを作ろう」（2） 「レシピ絵本の製作」（6）	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭において調理を行わせ、調理記録や栄養・食品についてなどを絵本にまとめさせる。
	【発表】（別添資料2） 作品について発表（1 本時）	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート（別添資料2）を用いて、自分の作品についての成果と課題をまとめさせる。 ・グループで、製作した絵本について発表をさせる。 ・発表者へのコメントが批判的な内容にならないように留意し、肯定的な意見を伝えることができるようにさせる。
	【展示の見学・まとめ】（別添資料2） 作品展示の見学とまとめ（1 本時）	<p>（図書室での展示方法については図書部教諭と生徒図書委員に一任する）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室で展示されたレシピ絵本の様子を見学することにより、多くの作品に触れ、視野を広げさせる。見学後に、感想をまとめさせる。 ・レシピ絵本の学習を通して学んだことをグループで話し合い活動をさせ、各班での協議内容を要約して代表者に発表させる。

イ 本時の学習 (12・13/13 時間)

(ア) 学習目標

- ① 自分の作品について、的確に説明できるようにする。
- ② 他者の作品に対する自分の意見を肯定的に伝えることができるようにする。
- ③ 「レシピ絵本の展示」や意見交換から見聞を広め、食に関する関心を高める。

(イ) 本時の展開

- ① 製作したレシピ絵本の工夫した点や苦勞した点や改善するところなどをまとめ、6人編成のグループになり、各自のレシピ絵本について発表する。発表後は、他者から発表についてのコメントを聞く。



製作したレシピ絵本



発表時の様子

- ② 作品展示を見学して、表現方法などについて各自の考えを自由に述べ合う。



図書館でレシピ絵本を眺める生徒たち



「図書館だより」に掲載

- ③ 各グループの代表者が、本時の学習についての意見や感想を発表する。

(ウ) 言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成するための手だて

【思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類】

- ①体験から感じ取ったことを表現する。
- ②事実を正確に理解し、伝達する。
- ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
- ④情報を分析・評価し、論述する。
- ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。
- ⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

① レシピ絵本の製作（分類①・⑤より）

ホームプロジェクトの課題で休日のランチづくりに取り組ませ、調理法や食品・栄養についてレシピ絵本を作成させる。自身の作品について良い点と課題や改善点について記述させる。

② 作品についての発表（分類②・④より）

各自の作品について、互いに発表させる。また、他者の作品や発表の様子について論評させる。

③ 作品展示の見学（分類⑥より）

展示物について自由に意見を出し合い、互いの考えを伝え合うことによって新たな課題に気付くようにさせる。

④ 全体のまとめ（分類②・⑥より）

各グループの代表者に、グループの意見を要約させて述べさせる。

(エ) 評価の観点（思考力・判断力・表現力）

① 自身の作品について良い点を挙げ、新たな課題や改善点に気付いている。

② 他者の作品に触れ、互いの考えを伝え合うことによって作品について見方や食生活の在り方についての考えを深めている。

(オ) ワークシートにおける評価

別添資料3のように評価の判断基準を定めた。

ウ 授業実践を終えて

(ア) ワークシートより

A 自分の作品について

- ・料理は頑張って作ったけど、タイトルを考えたり、文章で分かりやすく表現することや、イラストを取り入れてレイアウトを考えることは難しかった。
- ・パソコンを使って製作した。見にくいところもあるが、文字の大きさやイラストとのバランスを考えて作ることができた。
- ・簡潔にまとめることに配慮しすぎたように思う。火力についてやまな板の取り扱いについてもっと詳しく書いた方がよかった。

B 相手の作品について

- ・文字の大きさが見やすい。細かいところまで工夫してあって、かわいかった。
- ・生地の状態の図示が分かりやすい。
- ・絵本の中に吹き出しを使ったり、主役を登場させたりしてまとめ方が上手。

C 発表を通して（グループ発表・作品展示）

- ・文章でまとめるのは苦手ではないけれど、うまく発表することができなかった。
- ・発表を聞くことで、料理が上手であることが伝わってきた。自分の料理の未熟さを痛感した。
- ・自分の作品を見られて恥ずかしかったけど、ほめられて嬉しかった。
- ・それぞれの作品を見せ合うことができたし、意見を出し合えたことが楽しかった。
- ・プレゼンテーションが上手だと作品が一層よくみえる感じがした。
- ・多くの人の絵本は、栄養バランスについても考えられていた。食習慣について意識していきたい。

(イ)生徒の変容

家庭で調理を行い、それをレシピ絵本にまとめて発表し、相手の作品についてコメントをすることによって、相互理解が深まり、今後の改善点がより明確になった。

ワークシートより、「A 自分の作品について」は、反省すべき点をあげながらも、調理を行い、絵本にまとめ上げたことに成就感をもち、自信につながっている。「B 相手の作品について」では、人の作品に触れることから自分の作品にはなかった点への新たな気付きが生じている。相手の作品の中のよい点を見付け、肯定的な態度で接することができるようになった。「C 発表を通して」では、作品を見られることに恥ずかしさを感じながらも、自分の作品のよい点を見付けてくれることへの嬉しさ、また、意見を出し合うことの楽しさに気付くなど製作や発表で自己表現をすることによって、自己や他者への理解が深まり、本実践は有意義だったと言える。

3 授業実践のまとめ

ホームプロジェクトで製作したレシピ絵本について発表を行い、意見を交換し合うことによって、自分の作品について振り返ることができ、反省点が明確になり、また、作品のよい点を伝え合うことによって、自己への気付きが生じ、自己肯定感が高まっていくことも分かった。そして、図書室での展示では、より多くの生徒や教員に作品を見てもらうこととなり、生徒の自信へのつながり、そしてより深い相互理解へと発展していった。

4 授業実践の成果と今後の課題

普通科において、専門教科「家庭」科目「フードデザイン」2単位履修という選択授業の中で、各家庭でホームプロジェクトを行うことは、学習内容が深まり、効果的な知識・技能の定着をより図ることができた。さらに、生徒作品を図書室で展示することは、生徒だけでなく教員も含め、学校全体に家庭科教育についての理解を得る機会にもなる。体験的な学習に言語活動を取り入れることは、学習目標を達成させるために効果がある。今後も、基礎・基本の知識・技術を習得した上で、言語活動の効果的な取り入れ方を検討していきたい。

課題として、ワークシートへの記述や発表の表現が具体的ではない場合も見られるので、指導を改善していきたい。例えば、「工夫されていてよかった」については、どういう点について工夫されていると感じたか、どうよかったのかということも思考力・判断力・表現力を身に付けさせるためには必要である。国語を中心とした言語を基盤として、教科の学習内容を習得できているかどうかを判断する上でも重要であると考えられる。

〈参考・引用文献〉

『高等学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省 2010年5月